

観光地における交通状況分析

- 神奈川県内における令和7年GWの速度状況
- 神奈川県内における立ち寄り状況及び速度低下状況
- 三浦市周辺の交通状況と今後の対応方針(案)
- 【参考】三浦エリアで実施している対策の概要

令和7年8月22日(金)

5 観光地における交通状況分析

5-1 神奈川県内における令和7年GWの速度状況

○令和7年のGW期間中における一般道路の交通状況について、ETC2.0プローブデータを用いて分析を実施した結果、神奈川県内では昨年に引き続き、「藤沢市・鎌倉市」「箱根町・小田原市等」「相模原市」「三浦市」の4地域で所要時間の増加が確認され、また新たに「川崎市」においても所要時間の増加が確認された。

■ 神奈川県内 一般道路の交通状況



■ 特に混雑が見られたエリア

24	神奈川県	川崎市	国道409号
25	神奈川県	藤沢市・鎌倉市	国道134号等
26	神奈川県	箱根町・小田原市等	国道1号等
27	神奈川県	相模原市	国道413号等
28	神奈川県	三浦市	国道134号

【取り組み内容】

- 全国13,417 地域 (5km×5km ヶ シュ) について、平常時 (令和7年4月23・24日) との平均旅行速度を比較
- 全国122,879 区間 (交通調査基本区間) について、平日 (令和7年4月23日・24日) との平均所要時間を比較

混雑地域	1割増加地域
	3割増加地域
混雑区間	平日より1.5倍以上時間がかかる混雑区間
	うちGW期間で3日以上混雑

※混雑 = 平日と比べてGWの所要時間が増加

5 観光地における交通状況分析

5-2 神奈川県内における立ち寄り状況及び速度低下状況

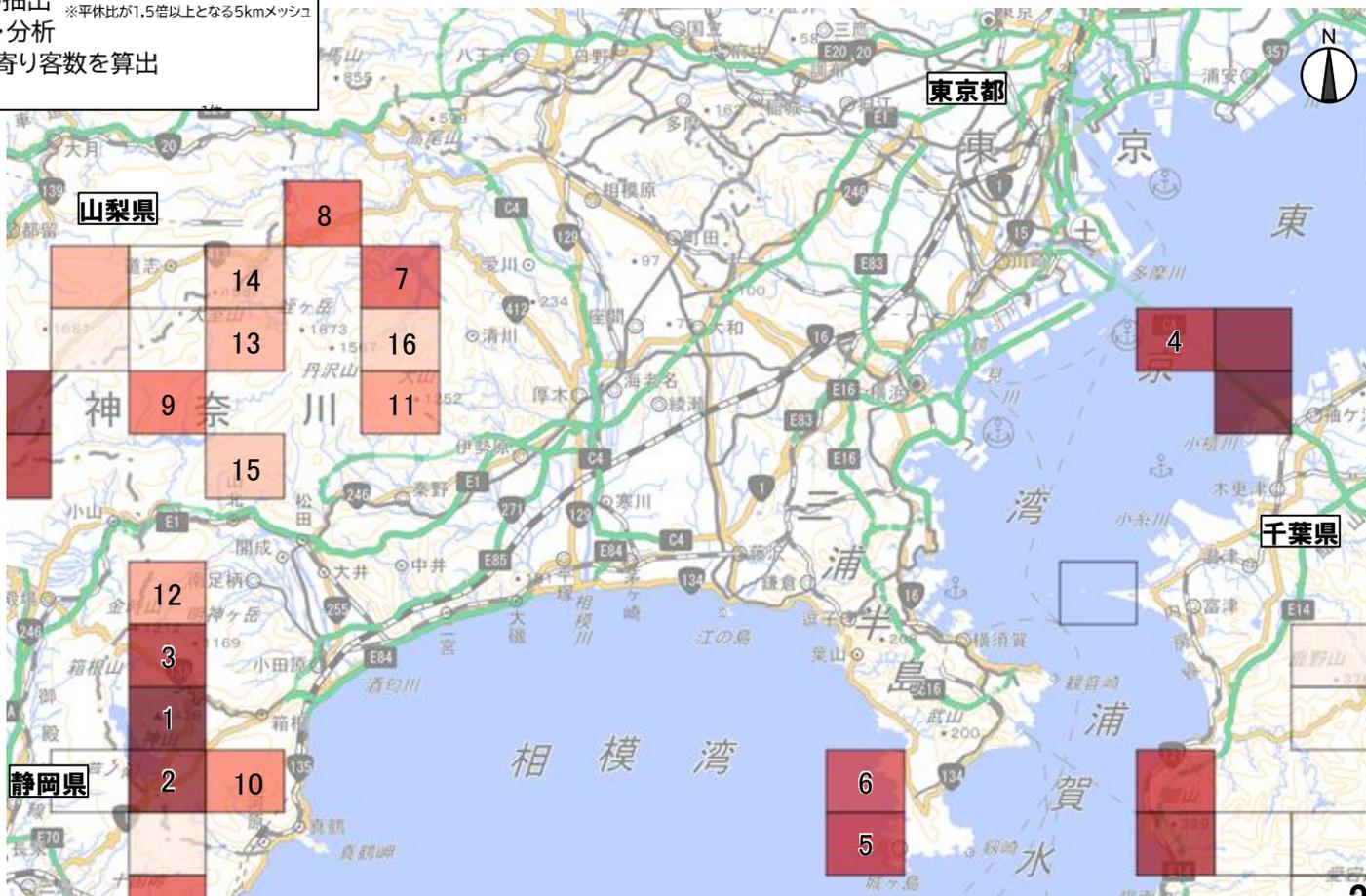
○神奈川県内における休日の立ち寄り状況が多いエリアをETC2.0プローブデータを用いて分析した結果、特に休日の立ち寄りが多いエリアとして箱根エリア（小涌谷、大涌谷、芦ノ湖、箱根神社、仙石原）、海ほたる、三浦エリア（三浦漁港、ソレイユの丘）が抽出された。

○本委員会では、立ち寄り数が多く、GWの所要時間が増加傾向である三浦エリアを対象とした交通状況分析結果を報告。

■ 神奈川県内における立ち寄り状況（立ち寄りランキング）

①平日と比較し、休日に車で訪れる人が多いエリア※の抽出
※平日比が1.5倍以上となる5kmメッシュ
 (分析手法) ETC2.0データから着トリップを集計・分析
 R3センサスの平均乗車人数から立ち寄り客数を算出
 (分析期間) R5/4/1~R6/3/31

順位	メッシュ内の主な施設等	メッシュ内の休日立ち寄り客数(人/日)
1	小涌谷、大涌谷、芦ノ湖	70,600
2	箱根神社	48,400
3	仙石原	21,400
4	海ほたる	18,200
5	三崎漁港	13,900
6	ソレイユの丘	8,400
7	宮ヶ瀬湖	4,500
8	青根キャンプ場	2,800
9	中川温泉	1,500
10	幕山公園	1,000
11	大山	1,000
12	矢倉沢	1,000
13	西丹沢	800
14	西丹沢	800
15	丹沢湖	400
16	宮ヶ瀬湖	200



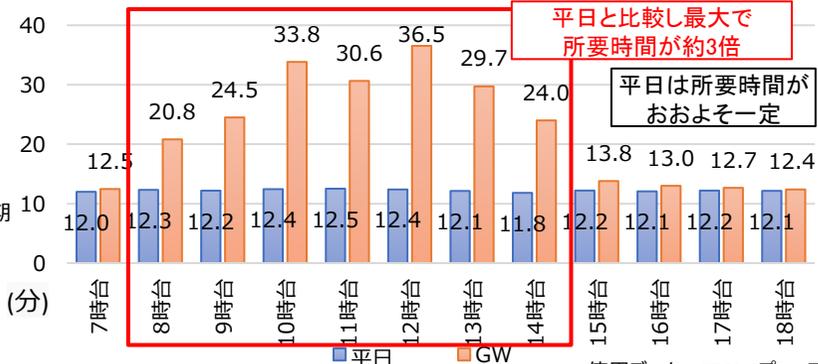
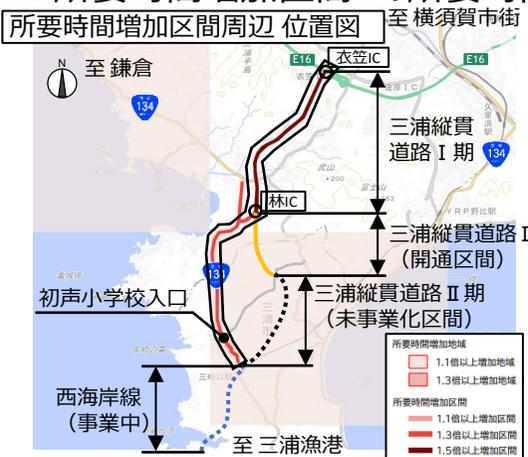
休日における車での立ち寄り客数ランキング

5 観光地における交通状況分析

5-3 三浦市周辺の交通状況と今後の対応方針(案)

○国道134号初声小学校入口交差点では休日速度が改善傾向にあるが、GWでは平日に対し三浦縦貫道路Ⅰ期～国道134号間の所要時間が増加している。
 ○GW期間の主な目的地は「長井海の手公園ソレイユの丘」「三崎漁港周辺」と考えられ、国道134号を走行する車両の利用経路を見ると、約5割が横浜横須賀道路方面から来訪している。
 ○所要時間増加区間の所要時間を見ると、GWは最大で平日の約3倍であり、三浦縦貫道路のGW交通量は最大で平日の約3.5倍と、交通集中が顕著となっている。
 ○三浦縦貫道路及び国道134号が三浦方面への主要経路でありGW等は交通が集中することから、交通分散や来訪時間分散などの取り組みが必要。

■所要時間増加区間*の所要時間差 (平日・GW) ※位置図内黒枠□の区間



■三浦縦貫道路下りの交通量 (平日・GW)



使用データ：ETC2.0プローブデータ
 平日：R7.4/23-24 平均値
 GW：R7.5/3-6 平均値

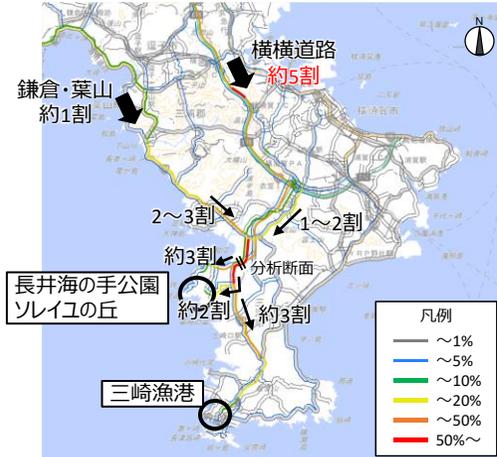
出典：神奈川県道路公社 交通量観測データ
 平日：R7.4/23-24 平均値
 GW：R7.5/3-6 平均値

■GWの目的地分布



出典：KDDI Location Analyzer

■混雑区間(国道134号)を通過する車両の利用経路



出典：ETC2.0プローブデータ (R7.5/3-6)

■混雑要因と今後の対応方針(案)

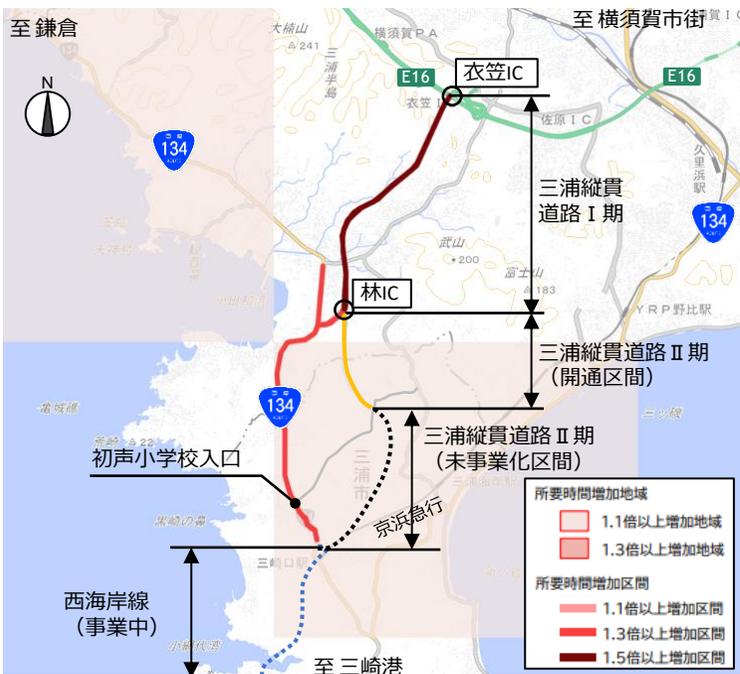
- 【三浦エリアにおける所要時間の増加要因】
- ・三浦半島西部の観光地へ来訪が集中する
 - ・半島南部の南北移動を支える幹線機能を持つ道路が国道134号のみであり、交通が集中する
 - ・国道134号を通過する車両のうち、約5割が横浜横須賀道路方面からの来訪であり、朝から日中にかけて、特に三浦縦貫道路を利用した三浦方面への来訪が集中している
- 【今後の対応方針(案)】
- ・事業中路線や計画中路線の整備促進
 - ・三浦市や観光協会へのヒアリング(渋滞認識や対策の意向等を聴取)
 - ・来訪経路分散、来訪時間分散を促すための情報提供の実施等

5 観光地における交通状況分析

【参考】三浦エリアで実施している対策の概要

○三浦エリアでは、道路のハード対策や観光施策が複数実施されており、ソフト施策の「^{ニューカル}三浦newcal」では、おトクなきっぷ等による公共交通の利用促進効果が期待される。

■三浦地域（一部横須賀市）の状況



周辺で実施している渋滞対策等の事業

ハード対策	ソフト対策
<ul style="list-style-type: none"> 三浦縦貫道路Ⅱ期北側 (R2.8：本線開通) (R4.3/30：林IC整備) 西海岸線整備 (一部開通、一部事業中) 	<ul style="list-style-type: none"> 三浦newcal (旧三浦COCOON) かなライド@みaura ※現在は終了 電動モビリティ利用促進CP ※現在は終了

■実施されているソフト施策等の概要（一例）

【三浦^{ニューカル}newcal (旧三浦^{ココーン}COCOON)】

newcalとは、京急グループが展開する、京急沿線での「住む・働く・楽しむ・学ぶ」が一体となった多極型のまちづくりを推進するプロジェクトであり、三浦newcalはプロジェクトの中の1つとなっている。「組織化」「地域拠点整備」「MaaS整備」「モビリティ整備」をキーワードに、沿線におけるあらゆる移動と地域サービスを統合した「EaaS (ENSEN as a Service)」の実現を目指している。おトクなきっぷや、各エリアのアクティビティやイベント、**目的地までの最適な移動手段の予約・決済**など、京急沿線をワンストップで便利に楽しむ、様々な機能を提供している。

みさきまぐろきっぷならスマホでスイスイ

品川駅からの発売額 (大人の場合)

デジタルきっぷ			紙乗車券
A料金	B料金	C料金	一律
3,750円	3,950円	4,250円	4,250円

▲おトクなきっぷ「みさきまぐろきっぷ」
出典：newcalプロジェクトHP, <https://newcal.jp>

【電動モビリティ利用促進キャンペーン】 ※現在は終了

神奈川県版脱炭素モデル地域での取組の一環として、三浦半島地域にて実施された電動モビリティの利用促進キャンペーン。電動モビリティを体感してもらうことで、脱炭素化を促すとともに、自家用自動車の利用減少による交通渋滞の緩和なども図り、地域の魅力向上につなげることを目指して実施した。

(実施期間：R6.8/26～R7.2/28)

種別	小型EV	電動キックボード
クーポン内容	アプリにクーポンコード入力で120分無料！ (1回限定)	ウェブアプリにクーポンコード入力で45分無料！ (1回限定)
利用料金	上記以降通常料金：15分220円	上記以降通常料金：15分250円
クーポン掲載場所	各ステーション・ポート	
使用場所	三浦半島地域2箇所	三浦半島地域35箇所



▲利用可能ステーション・ポートと走行可能範囲

出典：神奈川県HP, 2024年8月21日記者発表資料, <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/ap4/prs/r6762079.html>